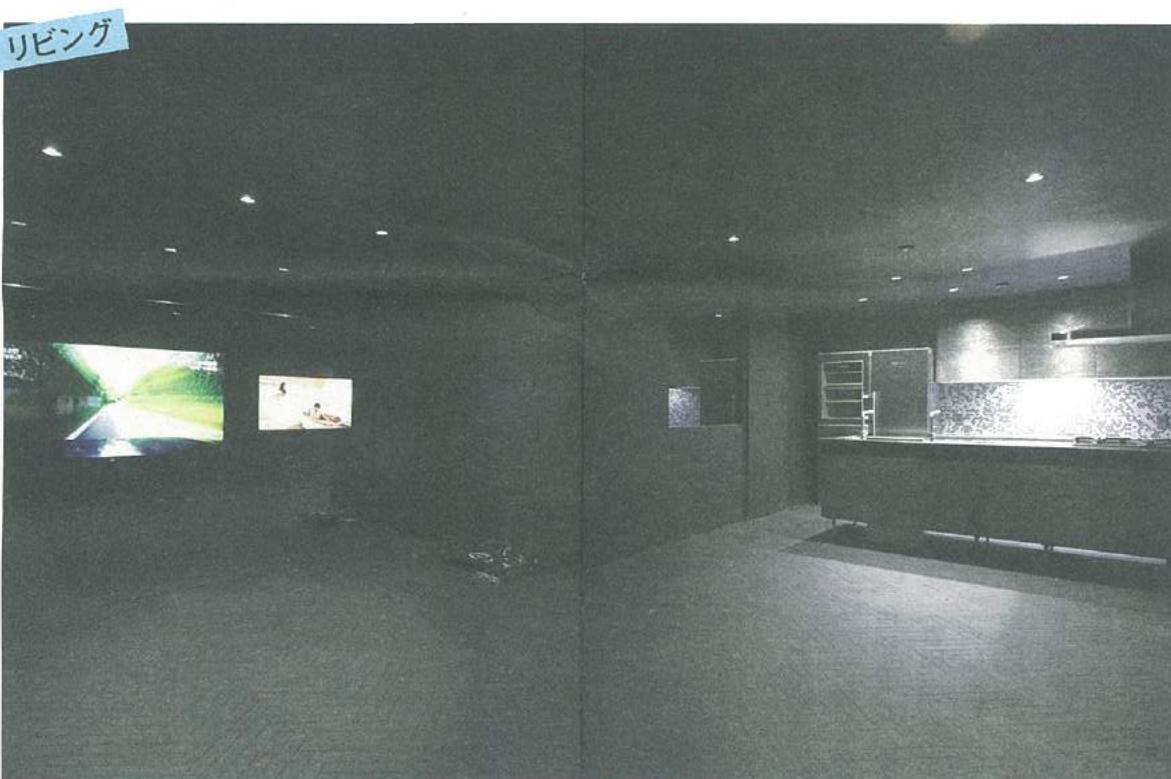


▲キッチンはトヨーキッチンスタイルを採用



◀バスルームも黒で統一した



▲壁一面には黒いガラスを施した。照明の光量は、生活できる最低限の光を確保



▲洗面台もトヨーキッチンスタイルを採用した



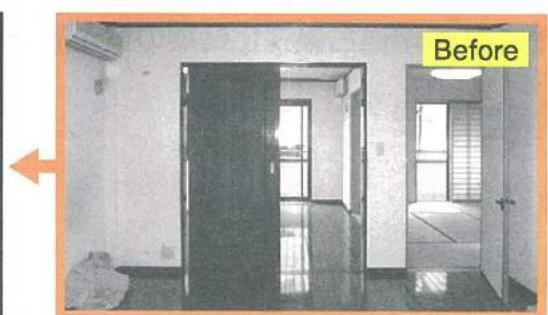
▲床はヘリンボーンで、黒の中にグレーを混ぜることでメリハリがついている。かつての白壁の姿は全く残っていない

「この物件の特徴は、徹底的に黒くしたこと。いかに美しい黒にするか、少しでも黒が際立つように質感の違う黒を何色か使用し、のっぺりしない

ようにしました」(菅谷栄二、チーフデザイナー)
木のフローリング、タイルや塗装の黒は、艶や濃淡をどう出すかを考え、セレクトした。キッチン台はシルバーグレーが混在し、キッチンが際立つ。照明の光量は、生活できる最低限の光を確保。床はヘリンボーンで、上から光が当たると反射して

黒だけでも
艶や濃淡を出す

マンションの1室を極限まで黒くしたりノベーションが完成した。それが、ニューユニクス(東京都渋谷区)が手掛けた「もっと黒くしたい」だ。商品選びから塗装、さらに光の当たり方までも全て黒にこだわった。昨年のリノベーション・オブ・ザ・イヤーでは「こだわりデザインR1賞」を受賞した。

リノベーション・オブ・ザ・イヤー
こだわりデザインR1賞
「もっと黒くしたい」

リノベトレンド・2019
RENOVATION TREND WATCH

ニューユニクス (東京都渋谷区)

極限まで黒くした家が完成

グレーになる。「床と壁の黒が、光の当たる角度で違う色になるようになっている。塗装の色番も1番ずつずらし、垂直と水平にある黒が微妙に変わる。ヘリンボーン

菅谷栄二
チーフデザイナー

洗濯機以外は全て黒へ

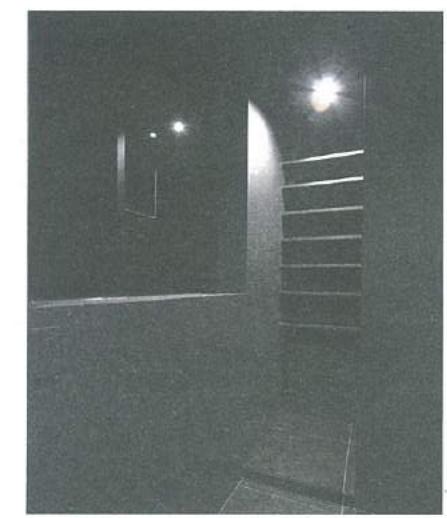
はアクセントになるようにしました」
唯一白いのが洗濯機。
「洗濯機だけは黒が見つからなかつた」。道路に仕切りのようにして間でも壊せるようにして間もなきで調べ、黒がないものは塗装した。「今回詳しく調べてみたら、黒のものは案外あります」といわれた。ただ採用率が少ないため、多くはなかったです

商品や建材はカタログ、インターネット、雑誌でよくまとめて、黒がないものは塗装した。「今回詳しく調べてみたら、黒のものは案外あります」といわれた。ただ採用率が少ないため、多くはなかったです

「寝室とLDKがあればOK。とにかく真っ黒にしてほしい」



▲入ってすぐの靴箱には照明が当たっている



▲廊下の床はタイルにした

仕事場と
真逆の色を目指す
円がかった。

この物件は、もともと施主が1棟丸ごと購入し、1階を住居にして、2、3階を賃貸していたもの。

これだけ黒くした理由は、施主の職場と全く逆の色にしたいという思いからだ。「施主さんは、地方でジユエリー店を何店舗も営んでいる社長で、東京にも出店している。ジユエリー店の店舗内は基本的に白い。普段の反動で黒くしたかったのだと思います」

家具は施主が持つてたものを使用。施主の持ち物は、財布も時計もみんな黒だった。「希望は『寝室とLDKがあればOK。とにかく真っ黒にしてほしい』、ほっこり系のものは使わないので」とのことでした

『完成後の私の感想は、『実際に家に入ると、言うほど黒くは感じない』でした。施主さんは、『洗濯機が黒くなってしまった』



「新築では絶対できない。住宅の自由さをあらためて実感できました」(菅谷氏)